

# 侵入防止柵設置のポイント「イノシシ編」

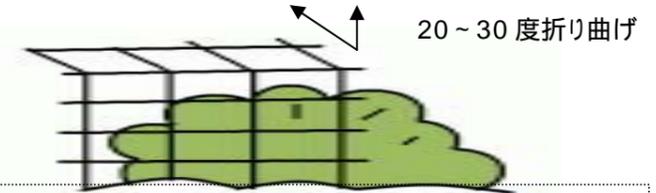
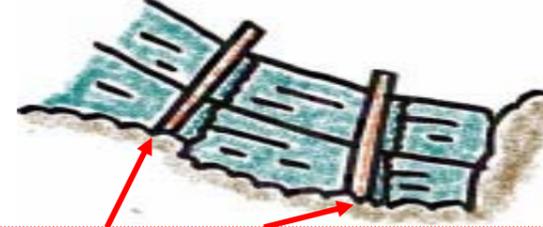
## 《1》防護柵の種類と特徴

## 《2》設置のポイント

### トタン板・ワイヤーメッシュ柵設置のポイント

トタン板は「目隠し効果」。斜面などですき間なく設置しましょう。

ワイヤーメッシュ柵は中が見えてしまいますが、上部を折り返せば、猪に圧迫感を与え、飛び越えにくくさせます。

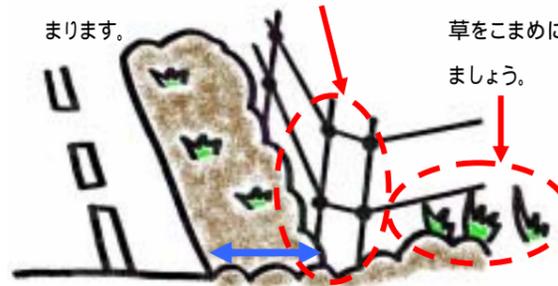


下側は鼻で持ち上げられないよう、支柱と板を針金でしっかり固定しましょう。

下部はもぐりこまれないように地面にしっかり密着させ、支柱にしっかり固定しましょう。

### 電気柵設置のポイント

角の支柱を2本にすれば強度が高ま  
ります。ろう電しないよう下  
草をこまめに刈り  
ましょう。



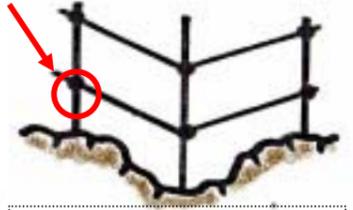
舗装道路から50cm以上離しましょう。  
コンクリートなどでは電気を通しません。

猪は硬い毛でおおわれているため、  
鼻と腹しか感電しません。  
20cm間隔が鼻の高さとして適当です。

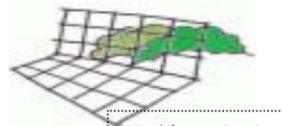


下にトタン板を敷けば、感電しやすく、なおかつ  
掘り返し防止にもなります。動かないようペグ  
などしっかり打ち込みましょう。

ガイシは外向きにつけましょう

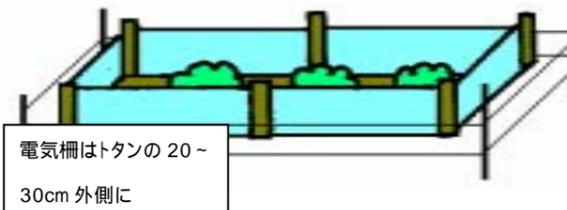


谷間でも間を作らないように  
しましょう。



ワイヤーメッシュを  
平置きすれば、掘り  
返し防止に

### 『組み合わせて猪を困惑させましょう！』複合柵の事例



電気柵はトタンの20~  
30cm 外側に

トタン板+電気柵  
視界を遮断するとともに電気ショックを与えます。  
柵をのぞこうとすると鼻が感電します。

その他:トタン板+ワイヤーメッシュ・ワイヤーメッシュ2枚重ね など  
どうしたら効果的か、考えながら設置しましょう!

「柵を作れば安心」は大間違いです！  
山奥の田畑など人があまりこない場所では、昼の間も獣が活動するため**夜間も通電**しておく必要があります。  
収穫後も柵を設置してください！  
冬の田んぼのヒコバエは猪の格好のエサになるため、猪を寄せ付けないためには**稲刈り後も柵を取外さない**ことが大切です。  
イノシシに「来ても無駄だ」と思わせるよう、工夫しながら柵の設置と管理をしましょう。

防護柵	資材の特徴と価格 (mあたり)	囲い方などのポイント	野生獣の侵入防止効果
トタン板	幅80cmのトタン板が効果的。200~500円/m程度	すき間を作らないように設置	イノシシ シカ × サル ×
金網フェンス	野生獣に押し広げられにくいように10cm以下の目合いがよい。200~1200円/m程度。	対象獣に応じた柵の高さ、設置面の処理が必要。	イノシシ シカ サル ×
ワイヤーメッシュ	イノシシ用は、径5mm以上の鉄棒で、目合いは10cm以下(幼獣の進入防止)がよい。250円~500円/m程度。	おもにイノシシに用いる。上部を折り返すと進入防止効果が高い。シカを防ぐには2mの高さが必要。	イノシシ シカ サル ×
ネット	イノシシ、シカは金属線を編み込んだ獣害専用ネット(目合いは10cm以下)が効果的。サルはポリエチレン製・テグス製の網(目合い4~5cm程度)などを使用。200円~1,200円/m程度	進入方向にネットを垂らしてイノシシ、シカの進入防止を図る。外側に垂らすと獣が絡まって効果的	イノシシ シカ サル
電気柵(電線型)	アルミ線、針金あるいは金属線を編みこんだロープなどを使用。250~1,000円/m程度。	漏電防止のため防護柵の中では、最も除草に手間がかかる。サルを防ぐには、進入に数秒時間がかかるような工夫が必要。	イノシシ シカ サル
電気柵(ネット型)	通電性(金属などを編みこんだ)を持ったネットを使用。1,000~3,000円/m程度	おもにサルに対して用いる。管理は同上。	イノシシ シカ サル

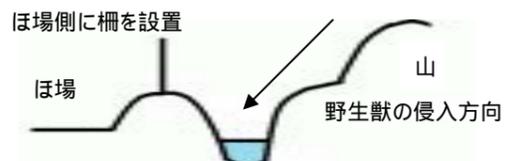
注1)有刺鉄線による進入防止効果は低い

(農林水産省 野生鳥獣被害防止マニュアルより引用)

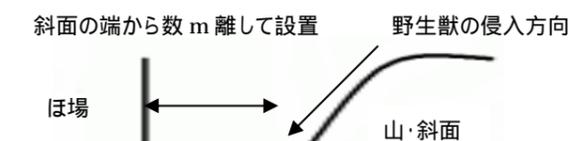
注2) 進入防止効果 高い ある 限定的 ×なし

## 《3》こんなときには?! 柵の設置位置について

### A 水路がある場合の設置例



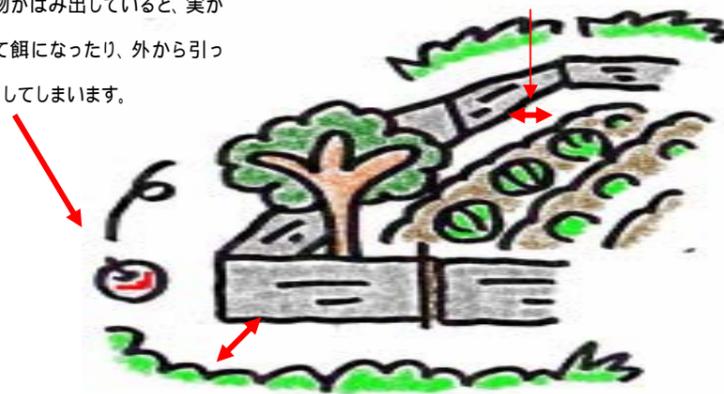
### B 山すそなど斜面の端に設置する場合



山側に設置してしまうと、電柵に猪が感電したとき、後ろにさがれないので前に突き抜けてしまいます。

### 管理しやすい畑にしましょう

柵から作物がはみ出していると、実が外に落ちて餌になったり、外から引っ張られたりしてしまいます。



草地と柵の間をあけましょう。人間にとっては管理しやすく、獣も隠れにくくなります。

柵と作物の間をあけましょう。柵を管理しやすく、獣に外から葉などを引っ張られにくくなります。

### どこまで囲えばいいの?



「どこまで守りたいのか」考えながら設置することが大切です。

耕作放棄地の管理ができずにいるなら、耕作放棄地ごと囲うのも一つの手です。